

## 参院環境委員会で市田忠義議員が追及、何の責任も取らないことは、「大企業としての説明責任、社会的責任に反するもの」

市田忠義参院議員は16日の参院環境委員会で、新日鉄住金室蘭製鉄所が、産業廃棄物である鉄鋼スラグやダストを埋め立て、室蘭市の区画整理事業地や登別市の消防署建設予定地で、ヒ素、水銀、鉛、フッ素などの土壌汚染を引き起こし、多大な損害を与えている問題を追及し、大企業の説明責任、社会的責任に反する問題を追及しました。



質問する市田議員＝10月16日  
参院環境委員会

市田議員は、紙議員との合同で室蘭、登別を現地調査した結果を踏まえ、「先日、北海道で、産業廃棄物になっていく鉄鋼スラグなどによる土壌汚染問題を調査してきました」と環境委員会で質問を行いました。

市田氏は、登別市緑町の消防建設予定地から土壌環境基準を超えるフッ素が検出されたこと、登別市は建設を断念し、民間売却を検討し、多額の損害が出る問題を取りあげました。この土地は、新日鉄室蘭製鉄所が鉄鋼スラグなどで埋め立て、96年に登別市に売却したもので、「新日鉄がそれを説明しないで登別市に売却したなら、説明責任を問われる」ことをとりあげました。

政府参考人が「鉄鋼スラグ埋設は事実だが、その使用者は不明」との答弁を行ったため、市田氏は、消防建設予定地と地続きの室蘭市旧東中学校跡地を室蘭市が、イオンに売却しようとしたところ、環境基準を超えるフッ素が検出され、地下に大量の鉄鋼スラグが埋設されていた問題も追及しました。「そのために市の売却予定価を一億五千万円値引きせざるを得なかった。しかし、新日鉄から説明を受けていなかったとしたら、説明責任を果たしていない、この責任が厳しく問われると思うが、いかがですか」と問い質しました。政府参考人は、「汚染原因は、鉄鋼スラグを路盤材に使用したことですが、どこから発生したかは確認がない」との答弁を続けました。

市田氏は、「新日鉄側が売却の時に、そういうもので埋めた場所だよと説明する必要があった。知っていれば、消防の予定地にする必要はなかった。そういう損害を市が被った。いまの答弁だと、新日鉄室蘭には何の責任もないという立場ですか」と問い質したところ、政府参考人は「北海道庁に確認したところ、汚染原因が特定できていないということなので、そのように対応していく必要がある」と答弁しました。しかし、望月大臣は、「事業者は、公害防止や自然環境保全に必要な措置を求められる。環境負荷の低減の取り組みにより社会的責任を果たすとともに、説明責任を果たすことは重要である」と答弁しました。市田氏は、当然そうあるべきだと受けました。

## 室蘭八丁平土壌汚染も新日鉄の産廃埋め立て。法規制以前でも企業責任がある

続いて新日鉄室蘭が産廃処分場として埋め立てた室蘭市八丁平が区画整理され、社有地、市有地及び公園、民間住宅などに造成されたが、いずれの土地からも有害物質が検出され、「驚いたのですが、公園からは基準の140倍のヒ素、23倍の鉛が検出」されたことを明らかにしました。

これについて政府が「承知しているが、新日鉄の廃棄物が原因かは灰色である」とかばう答弁をしたことから、市田氏は「市の調査報告書に新日鉄室蘭が埋め立てたからとある。自らの責任で管理していれば、土壌汚染は発生しなかった。廃棄物処理法に反している」と指摘しました。これに政府が「廃棄物処理法施行前の問題」と述べたことから、市田氏は「現にそこに住んでいる住民や住宅地や公園などが汚染されているとすれば、適法かどうかだけで判断してならない。環境省として政治的判断が必要だ」と求めました。

望月大臣は、「施行前の廃棄法はゆるゆるのもので、市田氏の指摘はそのとおり。企業には十分に社会的責任があり、それを感じて対応すべき。我々もそこを指導する」と答えました。市田氏は、「新日鉄室蘭は」「法規制以前の問題としてやっぱり責任を回避してはならない。大企業の廃棄物処理には重大な問題点がある」と再度確認しました。